

新春所感

牛

2026年



菊川市長 長谷川寛彦

夢叶う

新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、9月に日本列島を横断し各地に記録的な大雨や被害をもたらした台風15号により、改めて自然災害の怖さを実感いたしました。市内では1時間に127ミリメートルの猛烈な雨を観測し竜巻など、突風による被害も多数発生しました。今回の対応状況等を踏まえ、国や県、近隣市町などとしっかりと連携し、防災対策を進めてまいります。

昨年10月には大手建設関連会社が公表した「街の幸福度ランディング2025 静岡県版」において、菊川市が第1位に輝くという嬉しいニュースがありました。実際に住んでいる人が「どのくらい幸福だと感じているのか」等を調

感じています。引き続き「住みたいまち菊川市」の実現に全力で取り組んでまいります。

昨年、市民の皆様に令和8年をどんな年にしたいかを表す漢字を募集したところ最も多くの方が選んだのは「叶」でした。選んだ理由として、「みんなの夢や願いが叶う明るい一年になつてほしい」や「誰もが夢を叶えることができる幸せなまちになつてほしい」など、未来に期待する声がたくさんありました。令和8年は第3次菊川市総合計画が施行される年です。この計画の将来像を「誰もが夢叶う幸せ創生都市・菊川」と設定しました。将来像の実現に向け「次世代」「安心」「幸福」「快適」「躍動」の5つの魅力目標に基づき、施策を進めてまいります。

人口減少、少子高齢化が進んでいます。菊川市を未来へ繋げていくためには、移住・定住の促進や出生率の向上など、人口減少の急激な進行を可能な限り抑える「緩和策」と、健康寿命の延伸や多様な人材の活躍など、人口が減つても持続可能なまちづくりを進める「適応策」をバランス良く実施していく必要があると考えています。

このほか、教育や防災、医療、環境、社会資本整備、経済、農業、コミュニケーションなど様々な取組を進める事で、誰もが夢を持ち、夢を叶える事ができる「幸せ創生都市・菊川」を、市民の皆様と共に創つてまいります。

中でも、少子化は避ける事のできない課題です。本市では、近年の多様な価値観や考え方を尊重しながら、結婚や出産の希望を叶える体制の整備に取り組んでおり、引き続き出会いの場の支援や、子どもを望む人への支援として、全国トップレベルの妊娠サポートを展開してまいります。

「適応策」として、特に重要なのが健康新寿命の延伸です。昨年9月に静岡県が公表した「お達者年齢」では、静岡県内35市町中、菊川市は男性が2位、女性は昨年15位から11位となりました。今後も「食事・運動・社会参加」をキーワードに、若いうちから健康づくり活動や認知症対策などを含めた介護予防活動に取り組む事ができる環境づくりを進めてまいります。

このほか、教育や防災、医療、環境、社会資本整備、経済、農業、コミュニケーションなど様々な取組を進める事で、誰もが夢を持ち、夢を叶える事ができる「幸せ創生都市・菊川」を、市民の皆様と共に創つてまいります。